

令和3年度事業報告書

<概況>

令和3年度も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける1年となり、私たちの生活様式もかつて経験のないほどの変化を強いられ、事業運営にあたっては日々コロナ対策に迫られ、大変難しい舵取りを迫られることとなりました。

公演事業については、ワクチンの普及により平常時としての事業再開も期待されましたが、先行きの不透明感が増すなか常に予断を許さない状況を踏まえながら実施・運営にあたることとなり、長引くコロナ禍での制限を受け、予定通りに実行できるものばかりではありませんでしたが、制約の多い中で出来る限りの範囲で事業を実行に移すとともに、観客・関係者の安全安心を第一に優先して取組みを進めました。

今般のコロナ禍のような全く予期しない事態に直面し、2年間に渡り文化芸術活動が困難を極める状況下におかれましたが、当会は、この時代こそ、生きる力となる伝統芸能の価値を伝え、継承と振興に寄与する役割や責任を果たしていくことが大切と捉え、その必要性和重要性の認識のもと、大きな環境の変化や荒波にも臨機応変・柔軟な対応を行って多くの主催公演の公開活動を実現することができました。

これは、大きな応援・励ましと支えてくださる評価の声とともに、当会の伝統性を踏まえた実績と多様な人材で構成された団体の進取の風土を強みとして生かすことができたものと捉えております。この力を発揮できた源泉を大切に今後目標実現に取組み、豊かな文化の魅力を世界に発信する事業成果に結び付けていきたいと考えております。

———事業の実施状況———

<演能会の実施>

京都観世会会員の能楽師が企画・出演する演能会は、会の創設以来継続して行ってきた当会の事業の根幹をなすものであります。本年度も多様な上演形態により、広く一般に「能楽」の鑑賞機会を提供し、普及啓発を図るとともに、技術・技能の伝承の観点から中堅、若手の積極的な育成に努めました。

(1) 京都観世会例会

京都観世会の自主公演の中心となる定期会。

本年度も緊急事態宣言下により、観客数を制限された公演はありましたが、何とか中止や延期をすることなく、能楽の普及・啓発・振興の中心的役割として予定通り10回の公演ができました。

1月例会	「翁」「鶴亀」「葛城」「小鍛冶」	2月例会	「自然居士」「雲林院」「吉野琴」
3月例会	「花月」「西行桜」「大会」	4月例会	「嵐山」「采女」「藤戸」

5月例会 「橋弁慶」「杜若」「須磨源氏」 6月例会 「頼政」「水無月祓」「土蜘蛛」
8月例会 「邯鄲」「玉鬘」「恋重荷」 9月例会 「張良」「野宮」「安達原」
11月例会 「生田敦盛」「三輪」「車僧」 12月例会 「通盛」「蟬丸」「鉢木」

(2) 観世青年研究能

「京都府次世代等古典芸能普及促進公演」として師匠の指導のもと若手による清新な舞台が2回公演に分けて演じられました。

7月 「敦盛」「吉野天人」 8月 「巻絹」「舍利」

(3) 春・夏の素謡と仕舞の会

普段の能公演とは異なる形態で、素謡（能一曲をシテ方地謡数名のみで型・囃子を加えず、謡だけで上演する）と仕舞（能の一部分だけを、シテ方一人で面・装束を着けず紋付袴のまま地謡だけで演ずる）で構成する会の公演を行いました。

春 3月 「屋島」「弱法師」「桧垣」「葵上」

夏 7月 「賀茂」「安宅」「鸚鵡小町」「藤戸」

(4) 京都観世能

客演を招聘せず京都観世会のベテラン・中堅を起用して、至芸に触れていただく年に一度の特別公演ですが、本年度はおお客様のご要望にも応えるべく人気曲を並べて開催しました。

10月 「安宅」「定家」「道成寺」

(5) 能楽教室・狂言教室

ホームページ等で募集・受付を行い、全国の中学校・高等学校の生徒を対象に、伝統芸能に対する理解を助け、学習をより効果的に行う一助として、能・狂言を鑑賞してもらう能楽教室・狂言教室を開催しました。

・本年度もコロナ禍にて中止・延期が相続き、1回のみで開催しかできませんでした。

10月

(6) 特別能（降誕会能）

京都における能楽行事として、西本願寺より依頼を受けて本願寺の南能舞台（重文）にて上演の予定でしたが、本年度もコロナ禍にて中止となりました。

(7) 面白能楽館（企画能）

京都観世会の中堅・若手が中心となり、主に能の初心者や子供向けに「体験・展示」を盛り込む企画能を準備しておりましたが、三密の弊害を鑑み、本年度も中止となりました。その代替として能の「型」を広く一般に紹介する為、以前この催しで取り上げた「桃太郎」を題材に「リトミック仕舞」として動画を作成し、YouTubeにて無料で公開しました。

(8) 復曲試演の会

上演の途絶えた優れた演目の復活に2年前から取組んできた6回目となる研究事業ですが、昨年度の事業がコロナ禍にて延期となり、本年度の2月に本公演を開催しました。

2月 「篁」 古演出による「葵上」

(9) 伝承の会

伝統を次世代に受け渡す大切な事業と位置付けて長期的なビジョンを持ち、新しい世代の担い手の発掘と育成、幅広い世代の鑑賞者の創出・育成に取り組んでいます。

次代を担う若手の鍛錬の成果を披露する舞台としてメディアに取り上げられるなど、能楽文化の振興・伝承に好循環をもたらす環境づくりにつながりました。

11月 (能):「花月」「猩々」 (舞囃子):「東方朔」

(10) 能楽チャリティ公演(有志)

相次ぐ自然災害により極めて甚大な被害を被った被災地の方々に対し、少しでも復興支援の役にたてればとの思いから、例年通りチャリティ公演を企画しましたが、コロナ禍により中止となりました。

(11) 日本全国能楽キャラバン公演

文化庁の補助金施策アートキャラバン事業として、本年度7月から能楽協会との共催で新たに企画開催した公演で、本年度は下記8公演を実施しました。

- ・復曲試演の会追加公演 7月 「篁」 古演出による「葵上」
- ・五夜連続源平盛衰物語5回 8月～12月 「清経」「二人静」「実盛」「俊寛」「碓潜」
- ・一臂来復祈願能 IN 名古屋 VOL① 8月 「邯鄲」「夜討曾我」
- ・一陽来復祈願能 IN 和歌山御坊 11月 「翁」「道成寺」

<能楽堂の設置と維持運営>

京都における能楽文化振興の拠点となる能楽堂を維持運営し、自主公演や舞台整備等で必要な日程以外は、能楽、伝統芸能の保存振興のための公演や、素人発表会・練習会・申合・稽古などに対して、施設を利用に供しましたが、コロナ禍の影響にて公演の延期・中止もあった反面、新規事業の公演や申合・稽古等もかなり増えました。

令和3年度の利用日数は235日間となっています。

<能楽道具の保存と伝承>

公演で利用する道具の制作と保存・保管を京都観世会館内において行い、保存伝承とともに能楽公演実施を支えています。

<研究・普及啓発及び会報の頒布>

能楽の研究及び情報提供によって能楽への興味・関心を深めてもらい、普及を促す趣旨で取り組んでいます。

- (1) 機関誌「月刊能」を年間12号（各号約2,000部）発行し、会員・申込者・社員への頒布のほか、大学・能楽堂・図書館・報道機関への寄贈を行いました。
- (2) 舞台利用者の音声映像の録音録画、能楽囃子の練習テープなどを廉価で提供しました。
- (3) 浅野文庫をはじめとする当法人への寄付や寄託を受けた年代資料を、将来的に活用する為に、整備ならびに保存の必要があるとしてアーカイブ作業などを行い、その成果の一部を「月刊能」にて紹介しました。

また浅野文庫の資料出版やフォーラム開催のための準備を行いました。

<収益事業>

- (1) 駐車場の運営

会館隣接地で時間貸駐車場を運営し、来場者や出演関係者にご利用いただきました。

- (2) 会館施設の貸与

会館内のサービスの充実、利便性の向上を図ることを目的に、能楽関連書籍・用品の売店と食堂開設のコーナー貸しを行いました。

<法人運営>

- (1) 広報活動の状況

ホームページを通じて公演情報、例会会員入会のお勧め、能楽フォトライブラリーの配信など、情報公開・提供により広報活動を充実させ普及に努めました。

併せて、伝承の会及びサポーター制度のマスコミへの情報提供・取材協力により、公演活動の周知を図り、広く関心を引き起こすことができました。

なお、ホームページにつきましては、情報をより見やすく、また、海外の方にも利用いただけるウェブサイトへと改修して対応をいたしました。

- (2) 文化振興費補助金による助成（舞台芸術創造活性化事業）

我が国の舞台芸術の水準を向上させる牽引力となっているトップレベルの芸術団体が国内で実施する舞台芸術の創造活動を助成するもので、京都観世会の例会・京都観世能・復曲試演の会がその助成を受けており、また、伝承の会についても文化振興基金の伝統芸能の公開活動助成金を受けました。

- (3) 庶務・管理（会議の開催に関する事項）

①社員総会 通常総会を2月28日に開催

②理事会 5回開催（2月12日・2月28日・6月27日・9月26日・11月28日）

③理事連絡会 6回開催（1月10日・3月28日・5月23日・7月11日・
8月22日・10月24日）

（4）能楽普及活動の拠点事務所設置

京都における能楽文化振興の拠点となる能楽堂の維持運営及び演能会の実施に関する作業を行いました。令和3年度の営業日数は308日間となっております。